

阿南市立阿南第二中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①UDやICTを取り入れた「わかる授業」の実践
- ②言語活動の充実を図り、表現力を育成する授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
【教諭】宮本 和香

委員
【校長】加賀谷 登 【教頭】岩倉 雅彦
【教務】片山 徹
【学年代表】宮本 和香 笹野 潤 森 雄一

校長

加賀谷 登

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

研究授業やオープンクラスの機会を持つことで、管理職をはじめ全教職員で把握する。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○どの教科も授業に真剣に取り組んでいる。上位層・中間層の生徒は基礎的・基本的な知識技能が身につけている。 ●基礎学力定着のための家庭学習時間が不足している生徒が多く、知識・技能の定着に個人差が見られる。	・セミナーや自主学習ノートを毎日提出することができ、基礎的・基本的な知識を確実に身につけることができる。 ・小テスト、単元末テストで正答率が70%(70点以上)。	・UDを取り入れたわかりやすい授業展開で、基礎学力の定着を図る。 ・各生徒の学習状況を把握し、生徒の実態や個に応じた指導を行う。 ・模範となる内容のノートを掲示する等、生徒の意識を高める工夫をする。 ・教員が相互に授業参観を行う、また年3回の研究授業及び授業研究会を行う。	振り返りテストの意識付けをする。(何のために行うのか)		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の意見や思いを表現することができる。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・自分の意見や思いを適切な言葉で書いたり発表したりすることができる。 ・グループ学習では、相手の意見を尊重しながら、話し合いの中で自分の考えを深めることができる。また、グループの意見をまとめることができる。	・「阿波っ子タイムズ」から記事を選び、視写、感想を書く活動を週1回行う。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前に個人で考える時間をしっかりと確保する。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自主勉強ノートを毎日計画を立てて仕上げ、提出できている。 ●家庭学習の時間が少なく、疑問に思ったことを自ら追求しようとする姿勢に乏しい。	・学ぶことに興味や関心を持ち、どの教科にも積極的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「課題ボード」を有効に活用する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業の目標や活動の流れを提示し、本時の振り返りをさせる。 ・テストに向けて、目標設定や計画表作成をさせ、テスト後に振り返りをさせる。	生徒のつまづきに対して、自ら問題の解決の糸口に気づくような助言を与える。		

令和6年度 学力向上ロードマップ

